

瀬戸市のレクリエーション啓蒙活動及び振興に関する一考察

早坂一成 (名古屋学院大学)

キーワード：レクリエーション ニュースポーツ 体操

現代日本の社会的諸問題である高齢者社会、産業構造の変化、人口減少などは瀬戸市でも顕著に見られる。それらを解決する一助として健康寿命の延伸、リージョンのコミュニケーション能力の向上が求められている。2014～2015年度のCOC（センターオブコミュニティ：地・知の拠点事業）のまちづくり事業（減災福祉・歴史観光）のレクリエーションスポーツの普及事業実施へ向けて、瀬戸市への地域貢献としてレクリエーションの啓蒙活動を行った。レクリエーションの素材として、ニュースポーツの数種目の実施及び地域の特性を生かし創作した体操を紹介し、ケーススタディの手法を用いて調査した。また、大学教育における段階発展型カリキュラムに先駆けて、大学生の主体的な活動を促がし、瀬戸市のニーズである「若い世代の活性化、若者の力を源に」の一助として活動し、対象である学生双方に有益となる活動の基礎作りとしてレクリエーションの有用性について探索した。

伝承遊びを受け継ぐ取り組み

一けん玉に着目して（保育所での試み）—

○仁藤喜久子（仙台白百合女子大学）

キーワード：伝承遊び けん玉 保育所

伝承遊びという言葉は昭和40年代から使われるようになった（小川2001）。子どもの遊びは遊戯として江戸時代の書物には著れており、子ども達はお正月には凧やこま廻し、羽根つき遊びなどをして伝承してきた。

しかし、子どもの遊びの変化や少子化の影響で子ども同士の遊ぶ機会が減少し、遊びの伝承が難しくなっている。そのため、日本の文化を継承していくには保育士や教員の果たす役割が大きい。保育士や教員を目指す学生自身の伝承遊びの経験が少ないのが現状である。保育士養成校においては、子どもに遊びを受け継ぐ取り組みのための保育士の育成が急務であるといえる。そこで、授業の中で伝承遊びを取り入れ、学生に遊び方を教えたりその楽しさを伝えたりしてきた（仁藤2014）。

今回の発表では、保育所における「けん玉」を取り入れた実践の場を通し、子ども達が「けん玉」の面白さや楽しさを感じ、意欲的に取り組むための環境や援助の工夫について保育士へのインタビュー調査から考察する。